

資料 1

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
2016 年度（後期）
一般公募「在宅医療研究への助成」完了報告書

テーマ

地域の老人クラブと医療者で考えるエンド・オブ・ライフケア
「私の意思表示帳」の共同制作と普及啓発活動

申請者名：内田信之

所属機関：NPO 法人あがつま医療アカデミー

提出年月日：2018 年 3 月 30 日

【背景】

群馬県吾妻郡は県の西北に位置する山間過疎地である。その面積は県全体の 20%程度であるが、人口は年々減少し現在 5 万 5 千人程度であり、県全体の 3%に満たない。

私たちは平成 25 年に貴財団より助成をいただき、「群馬県吾妻地区の在宅胃ろう患者の実態調査と胃ろう患者すべてを支えるネットワークの構築」という研究を行った。この研究の中で得た結論のうち私たちが最も重要と考えた点は、胃ろう造設時における本人の同意意思の有無である^{*1)}。当時の群馬県吾妻地区には 74 名の胃ろう患者を確認することができた。このうち造設時に本人の意思が明らかに関与していたのはわずかに 2 例 (2.8%) のみであった。平成 18 年から 22 年までの 5 年間に当院で胃ろうを造設した 144 名の後ろ向きの研究でも、胃ろう造設時に本人の意思が確認できていたのはわずかに 13 名 (9.0%) であった。これらの結果から、がんや認知症の末期となり経口摂取ができない状況、あるいは自分の意志を表明できない状況に陥る可能性が誰にでもあるということを、私たちは健康な時からしっかり考える必要があると確信した。そしてこの時の助成金の一部を「私の意思表示帳」の作成に使わせていただき、吾妻郡の医療者や住民に配布した。

その後、この活動こそが地域医療、在宅医療の本質と密接に関連していると強く認識し、地域の中で「リビング・ウィル啓発活動」を開始した。具体的には、地域の医療従事者、保健福祉事務所や町村役員などの行政関係者、消防隊、さらに一般住民たちを対象とした「リビング・ウィル研修会」と「私の意思表示帳」の作成である。

これらの活動を展開する中で、吾妻郡の老人クラブ連合会の方々と接する機会に恵まれた。この活動は老人クラブの皆様にも高く評価され、今後はともに協力し合いながら「リビング・ウィル啓発活動」を行っていくことが確認された。

なお、「あがつま医療アカデミー」とは、施設、職種の垣根を越えて地域の医療の問題を検討し、その解決に向けて行動を起こすことを目的に、平成 24 年に医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護部会、栄養士会などともに結成された団体である。今回の申請者が理事長であり、医師会会長、歯科医師会会長が副理事長となっている。

【目的】

群馬県吾妻郡 6 町村の老人クラブ連合会と吾妻郡の医療従事者が協力して「私の意思表示帳」を共同製作する。さらにその過程において吾妻郡内の様々な団体を対象に「私の意思表示帳」に関する研修会を行う。「私の意思表示帳」完成後、一般住民を対象としたフォーラムを開催し、この時「私の意思表示帳」を住民に配布する。

これらの活動を通じて、吾妻地域住民それぞれにエンド・オブ・ライフケアについて深く考えるきっかけを提供し、住民、医療者が一体となって自分らしく生きるための地域社会作りの一翼を担うことを目指す。

【方法】

1. 平成 29 年 3 月に NPO 法人あがつま医療アカデミーの会員に対して、今回の事業の協力者を募る
2. 平成 29 年 4 月に NPO 法人あがつま医療アカデミーの有志と吾妻郡老人クラブ連合会の理事の有志による「リビング・ウィル」研修会を行う。ここで私たちが今までに制作し、吾妻地域で使用している「私の意思表示帳」を土台として、老人クラブ連合会の方々の意見を最大限尊重し、多くの住民に使ってもらえる「私の意思表示帳」を検討していく（「吾妻意思表示帳委員会」を組織する）
3. 「吾妻意思表示帳委員会」を定期的で開催し、以下の 3 つのを行う
 - ① 「私の意思表示帳」を平成 29 年末までに完成させる。
 - ② 吾妻郡の各団体に働きかけ、「私の意思表示帳」の啓発を目的とした研修会を開催する。（この時の講師、スタッフは、老人クラブ連合会理事や NPO 法人あがつま医療アカデミーの有志とする）計画時は 15 回以上の研修会開催を目標とした。
 - ③ 上記の研修会で使用する資料は、「吾妻意思表示帳委員会」で作成する。この研修会は原則として同じ資料を用い、同じ方法で行うものとする。
4. 平成 29 年秋から冬にかけて、吾妻地域の一般住民を対象とした「私の意思表示帳」を啓発するフォーラム（あがつま医療フォーラム）を開催する。この時に「私の意思表示帳」を一般住民の方々へ配布する。
5. 吾妻地域の医療介護福祉従事者を対象とした、「アドバンス・ケア・プランニング研修会」を開催する。（本事業計画時にはこの研修会の開催の予定はなかったが、今回の事業と深く関連しているため、その一環として準備を行い開催した）
6. 平成 30 年 2 月頃行われる吾妻郡老人クラブ連合会の研修会において事業報告を行うとともに、平成 30 年以降の活動を立案する。

【結果】

1. 意思表示帳委員会について

主要メンバーによる事業計画の説明と今後の方針の確認をするための会議（2017 年 3 月 14 日開催）を含め、計 12 回開催した。このうち 6 回は吾妻郡保健福祉事務所の会議室を利用させていただき、吾妻保健福祉事務所長など行政の方々、吾妻郡老人クラブ連合会の理事の方々、および NPO 法人あがつま医療アカデミーの主要メンバーが参加し行われた（全体会議）。残りの 6 回は NPO 法人あがつま医療アカデミーの主要メンバーのみで、原町赤十字病院で開催した。会議出席者の延べ数は 198 名であった。

会議の主な内容は、①「意思表示帳」に対する自由意見を述べること 特に老人クラブのメンバーの意見の尊重すること ②NPO 法人あがつま医療アカデミーより「意思表示帳」の原案を作成すること ③原案を老人クラブの方々を含めた全体会議で提示し、内容を検

討すること ③「意思表示帳」を完成させること ④「あがつま医療フォーラム」の内容、講師の検討すること ⑤「あがつま医療フォーラム」を主催すること ⑦今回の事業の反省と総括

(議事録は省略)

第1回	2017/3/14	原町赤十字病院	7名	主要メンバーへの事業計画の説明
第2回	2017/4/19	吾妻保健福祉事務所	27名	老人クラブの理事の方への説明と了解
第3回	2017/5/2	原町赤十字病院	4名	研修会のスライド内容の確認、その他
第4回	2017/5/9	吾妻保健福祉事務所	40名	今後の方針の確認、意思表示帳への自由意見
第5回	2017/5/16	原町赤十字病院	3名	意思表示帳の原案検討
第6回	2017/5/29	原町赤十字病院	3名	意思表示帳の原案検討
第7回	2017/6/13	吾妻保健福祉事務所	24名	意思表示帳に対する老人クラブの意見の集約
第8回	2017/8/1	原町赤十字病院	7名	意思表示帳へのアンケート結果のまとめ
第9回	2017/8/8	吾妻保健福祉事務所	23名	意思表示帳とあがつま医療フォーラムの検討
第10回	2017/9/12	原町赤十字病院	8名	意思表示帳とあがつま医療フォーラムの検討
第11回	2017/10/10	吾妻保健福祉事務所	26名	意思表示帳とあがつま医療フォーラムの検討
第12回	2018/3/13	吾妻保健福祉事務所	26名	今回の事業の反省と総括、今後の課題

2. 「リビング・ウィル研修会」について

計画時は15回以上の研修会を目標としていたが、意思表示帳委員会の中で検討の結果、群馬県吾妻郡内の6町村(中之条町、長野原町、草津町、嬭恋村、高山村、東吾妻町)の老人クラブ連合会の定期集会などを利用して研修会を開催することが決定した。したがって研修会の回数は各町村で行った6回、老人クラブ連合会全体集会時の1回、その他老人クラブ連合会の理事に対して行ったもの、吾妻准看護学校で行ったものの計9回である。研修会参加者は延べ522名であった。

	日時	場所	講師	人数	対象	スタッフ
第1回	2017/5/8	長野原町保健センター	金子稔	50人	長野原町老人クラブ会員	1人
第2回	2017/5/9	吾妻保健福祉事務所	内田信之	40人	老人クラブ連合会理事	6人
第3回	2017/8/18	高山村村民体育館	内田信之	80人	高山村老人クラブ会員	5人
第4回	2017/8/23	大前活性化センター	剣持る美	40人	嬭恋村老人クラブ会員	3人
第5回	2017/9/13	草津町保健センター	山田明美	50人	草津町老人クラブ会員	4人
第6回	2017/11/8	長野原町山村開発センター	金子稔	120人	吾妻郡老人クラブ会員	3人
第7回	2017/11/9	中之条町ツインプラザ	内田信之	70人	中之条町老人クラブ会員	3人

第8回	2017/11/9	吾妻准看護学校	内田信之	22人	吾妻准看護学校1年	1人
第9回	2017/12/14	ホテル櫻井	剣持る美	50人	東吾妻町老人クラブ会員	3人

3. あがつま医療フォーラムについて

「あがつま医療フォーラム 2018・冬」開催要項

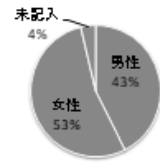
- 1 開催日時 平成30年1月6日（土） 午後2時～午後4時
- 2 会場 東吾妻町中央公民館（群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町1117-1）
- 3 内容
 - (1) 講演① 『私の意思表示帳』の解説
 講師 原町赤十字病院 看護師長 狩野 道子
 司会 原町赤十字病院 看護部長 矢嶋 美恵子
 - (2) 講演② 『人生のエンディングを自分らしく迎えるために』
 —あなたと大切な人の生き方、終わり方を考えてみませんか—
 講師 東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター
 上廣死生学・応用倫理講座 特任教授 会田 薫子 先生
 座長 NPO法人あがつま医療アカデミー理事長 内田 信之
- 4 主催 NPO法人あがつま医療アカデミー、吾妻老人クラブ連合会
 共催 吾妻郡医師会、吾妻郡歯科医師会、吾妻郡薬剤師会、
 群馬県看護協会中之条地区支部、吾妻郡栄養士会、群馬県理学療法士協会、
 群馬県作業療法士会、吾妻郡内全地域包括支援センター、
 吾妻保健福祉事務所、原町赤十字病院

参加者：115名

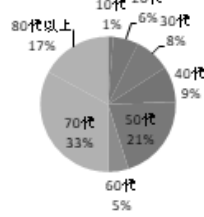
アンケート集計結果：回収人数82名（回収率 71.3%）

「あがつま医療フォーラム2018冬」アンケート集計結果
 (参加者115人 アンケート回収人数82人・回収率71.3%)

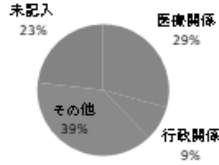
1. 1)性別



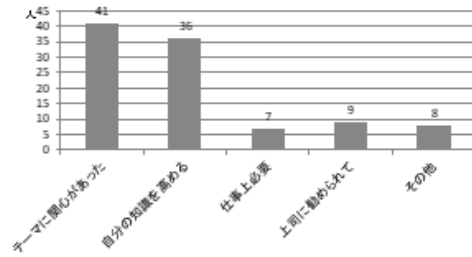
1. 2)年齢



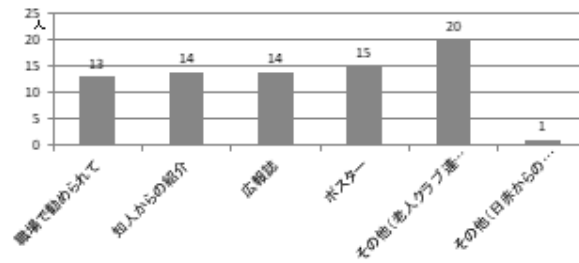
1. 3)職業等



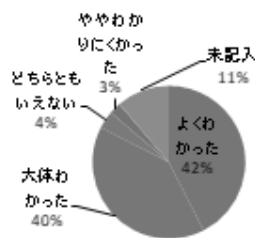
2. 参加理由 (複数回答可)



3. フォーラムをどこで知ったか (複数回答可)



4. 内容は分かりやすかったか



5. 講演時間について



『講演「私の意思表示帳」～私の思い、願い～』についての意見、感想』

- ・帰ってからゆっくり見たい
- ・とても分かりやすかった
- ・3度目の受講だったのでよくわかった
- ・最期の在り方について周囲との相談が認識の方向を変えらると思った。
- ・家族と話し合うことの大切さ
- ・わかりやすい説明だったがこの先社会状況がどう変化するかにより意識の変更もあり。
- ・元気な今こそ書く必要があるとわかった
- ・今回2回の講演を聞き勉強になった
- ・聞き取りにくかったのが残念
- ・表示帳の内容を変更したいとき、上に貼り重ねることができる心の変化がわかると思う
- ・家で家族の話題にしたい
- ・延命治療はどのくらいのところから？の区別がわかりにくい
- ・意思表示をどのような思いで記載したかほかの方の話も聞きたい
- ・心のケアをしていただきたい
- ・会場も巻き込んでよい構成だった
- ・どのタイミングで記入するか、また記入後も振り返りコミュニケーションをとっていく事が大切
- ・必ず自分で書いておこうと思った
- ・年齢に関係なく大切な人のために記入することが大事
- ・なんのためにこれを使うのかとても分かりやすかった
- ・意思表示帳を書くことによって自分だけでなく家族のためにもなるのだと思った
- ・もう少し勉強したい
- ・長い坂をのぼることと思います
- ・まずは自分で書いてみたい
- ・多くの人に意思表示帳を広め自分の家族と話し合ってもらいたい
- ・とても分かりやすかった
- ・「今は分かりません」や「その他」をできるだけ少なくしたい
- ・質疑時間が欲しかった
- ・とても良い内容
- ・延命治療はどこまで？
- ・よくわかった
- ・若いうちからでも家族に勧めたりしてまずは家族という身近なところから広めていきたい
- ・一日も早く書くことを心がけたい
- ・コミュニケーションツールとしての使い方をどんどん広めていってほしい

『特別講演「人生のエンディングを自分らしく迎えるために」についての意見、感想』

- ・とても分かりやすかった、自分も延命医療は望まない并希望する
- ・まだ先の話だと思っている
- ・胃ろうについてよくわかった
- ・何がよいのか一人で決めるのではなく周囲と連携
- ・家族との普段からのコミュニケーション
- ・医療スタッフ（特に医師）との話し合いの前に日頃から本人・家族で話しておくのが大事
- ・自分の両親や義理両親と話すことがなかなかできていないがとても大切なので試みたい
- ・事前指示は受け取って終わりではなくコミュニケーションを促進する道具として活用することが大切
- ・自分らしさを考えてみたい、そのうえでLWを再考したい。
- ・家族の方が悩まないように話し合うことが大切と聞いて納得ができたように思う
- ・主治医と家族の間に入って仲立ちできるよう自分自身成長したい
- ・父親の死のことを悩んでいたが自分は悪くないという事を確認した。
- ・真剣に考えなければならない問題と意識した
- ・まだまだ迷っている
- ・延命治療など会田先生の話の内容が一般社会全体に広められるとよい
- ・「人生の充実に貢献できれば常勝」身に染みた
- ・家で介護していた母の気持ちを聞いてみたいと思った
- ・本人の意思を尊重するとともに家族を支えることが大事と再確認した
- ・自分の意思を明確化することが家族を助ける事にもつながると感じた
- ・自分が意思表示できないとき家族が中心になるので自分の意思表示をしておくことは大切
- ・昔の在宅での死（医師の往診）を今の現代風にアレンジが自分らしい
- ・吾妻郡内一般人へのPRが足りない、自分の問題としてとらえるようにしてください
- ・延命治療について再度考える時間となった
- ・家族で話し合ってみたい
- ・大変わかりやすくエンディングについて自分なりに整理できた
- ・わかりやすくて本当に勉強になった、また来ていただきたい
- ・もっと多くの人に聞いてほしい
- ・大変貴重な講演を聴けて参考になった
- ・LWが最終決定ではなくコミュニケーションの手段として活用していく事の大切さを感じた
- ・それぞれの考えの違いによって便利な道具（胃瘻など）も悪者扱いされてしまうのだと感じた
- ・延命医療について自分の意思をしっかりとっておくことが大切だと思った
- ・この問題が日本老年医学会でしっかり議論され本人の満足を物差しにという立場表明されていると知って安心
- ・その立場にならないとわからない
- ・何事も心して勉強していきたい

- ・わかりやすく具体的事例もあり聞きやすくとても勉強になった
- ・医療者の中の考え方が色々違うと感じているこのLWをツールとして家族ケアも含めた対応を考える勉強になった
- ・本人の視点で適切な医療とケアを自分としては同調し意を強くしたい
- ・理論的に良い説明だった
- ・人の死を迎えなければいけない時に最低限何かしてあげたいと思ってしまうと感じた
- ・胃瘻や人工栄養は「延命治療」の問題になっているという事がよく分かった
- ・家族も本人も満足のいくような終末を迎えるには話し合いのプロセスが大切と実感した
- ・現在自分らしく生きているかよくわからない、よく考えてみたい（もう遅いかも）
- ・今、元気なうちから考える価値があるのか？
- ・もやもやした気持ちがすっきりしたわかりやすく丁寧に話していただき参加してよかった
- ・こんな時代だからこそ自分の人生の集大成を考えることは必要不可欠
- ・まさに今母がエンディングを迎えるという参考になりました

『フォーラム全体を通しての意見、感想』

- ・会田先生の講演、とても良い話だった
- ・今後も続けてください
- ・有意義だ
- ・一般市民と医療従事者の意見交換ができる場に発展させるとよい
- ・今までこのようなフォーラムに参加しなかったのが勉強になった
- ・本人の意思を家族で話し合い合意の上医療スタッフに伝える事。本人の意思表示により家族の絆が強まる
- ・現在、在宅で往診を受けるのは介護する人がいなくて難しいので事情に応じて意思表示の考えは変わる
- ・色々な方々が参加し、知識として知ったので地域に広めていければよいと思う
- ・参加してみたいと思っていた内容だったので良かった
- ・マイクの感度が悪かった。声は大きいと言葉がはっきりしない
- ・どの講演もマイクのせいと言葉がはっきりせず
- ・とても勉強になった。
- ・自施設、自宅に戻って今日の話伝え考えてみたい
- ・高名な先生が吾妻に来てくださりすばらしい。老人クラブの方も多数参加でき良い会だった
- ・声は大きく聞こえたがことばがわかりにくかったので音響を考えてほしい、ゆっくりしゃべってほしい
- ・ACPの必要性について勉強になった
- ・一つのテーマについて2人の方から講演を聞いて自分のこれからの生き方に関する意識を高められた
- ・学校でも死についての授業の中でエンディングノートについて学びもっと深く知りたいと思っ

ていたので

良い機会だった

- ・難しいが参加させていただきたい
- ・今の段階での一番良い方法を考えてもらう
- ・今後の生活に活かしたい
- ・会田先生の話は大変わかりやすく今後の医療の在り方を指していただいた
- ・マイクの性能があげられればさらに効果があった
- ・今後の展開が課題。ACP 賛成
- ・お元気な方々が多くとても有意義なフォーラムだった
- ・考えなければいけない直近の問題です
- ・良い勉強の機会となった
- ・とても分かりやすかった
- ・今日のお話を聞いてよかったです
- ・全体を通して色々考えることあり
- ・大変よく分かった
- ・非常に有意義な時間だった
- ・なかなか聞くことのできない講師の方を招いてもらえてよかったです
- ・医療用語が多い、早口

『今後、吾妻地域で行ってほしい講演会やセミナー等』

- ① 排泄ケアについての勉強会、オストミーに対する認識が定着していない
- ② 大切な人が亡くなり残された家族へのケアについて（グリーフケア）
- ③ このような講演をまたお願いしたい
- ④ 地域連携について（医療、介護、福祉）
- ⑤ 医療の在り方の本質を問われる事柄を知ること
- ⑥ 在宅介護、看取り
- ⑦ 本件に関する他地域での様子を聞きたい

4. 意思表示帳について

別添添付

意思表示帳のポイント

- ① アドバンス・ケア・プランニングの考えに基づいて作成
- ② 老人クラブの方々の意見を尊重
- ③ 吾妻6町村の了解を得て、それぞれのマスコットキャラクターのイラストを掲載
- ④ 難解と思われる医療用語を極力除外

- ⑤ 表紙については、年齢を重ねても恋愛する気持ちを持ち続けることを願って、島崎藤村の「初恋」とした（本助成申請者の意見を通していただいた）
- ⑥ 6,000部印刷 現在配布中
- ⑦ 配布先は、吾妻郡内の各医療介護施設（100弱）および、各町村の社会福祉協議会を通じて老人クラブ連合会の会員の皆様、群馬県内で私たちの活動を注目している医療介護施設、群馬県外でも配布を希望すると連絡のあった施設や団体、個人など

5. アドバンス・ケア・プランニング研修会について

平成30年2月11日 原町赤十字病院内で行われた。講師、インストラクターは、NPO法人あがつま医療アカデミーの主要メンバーが務めた。

参加者は計13名 参加職種は、薬剤師、看護師、介護福祉士、介護支援専門員などであった。

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）研修会

開催日時：平成30年2月11日（日曜） 9：00～16：00（受付開始 8：30）

開催会場：原町赤十字病院 3階 大会議室

総合司会： 山田 明美さん（六合温泉医療センター）

村田 智子さん（老人保健施設ゆうあい壮）

8：30 受付開始

9：00 開会挨拶

9：15 1. 講義アドバンス・ケア・プランニングについて

金子 稔さん（長野原へき地診療所 所長）

10：15 休憩

10：30 2. 事例検討① グループワーク

柳澤 ちぐささん（原町赤十字病院 看護師）

12：00 昼食

12：50 3. 講義 意思決定支援とコミュニケーション

松井 加奈さん（原町赤十字病院 看護師）

13：50 休憩

14：00 4. 相談者・対象者の立場に立って ロールプレイ

金子 美智さん（原町赤十字病院 MSW）

15：00 5. 事例検討②

柳澤 ちぐささん（原町赤十字病院 看護師）

15：50 終了書授与式 総括

内田信之さん NPO 法人あがつま医療アカデミー理事長

【考察】

私たち NPO 法人あがつま医療アカデミーは、貴財団の助成を受け、2014 年 4 月に「私の意思表示帳」の初版を作成した*1)。その後、この活動こそ医療の本質、特に在宅医療の本質と深く関わるものだという認識のもと、継続してその普及活動を行い*2)、「私の意思表示帳」も 2 回の改定を行った。

最近、日本のいたるところで「意思表示帳」や「エンディングノート」などが作成されている。自分や家族の生や死の問題の重要性は誰でも理解できる場所であり、この傾向は十分納得できる場所である。一方これらを作成する場合、ほとんどは医療者視点、あるいは行政関係者の視点である。私たちが今までに作成した「意思表示帳」についても、基本的には医療者視点によるものであった。そして作成した私たち医療者は、「意思表示帳」が完成したことで十分満足感を得ることはできた。しかしこれが本当に正しい方法なのか、常に自問自答を繰り返していた。私たちは自己満足していたに過ぎないのではないか。

その結果、人の生死の問題を切実なものとして、まさに目の前の問題として最も深く意識している方というのは、長い年月の中で、家族や友人などの死を経験し、あるいは様々な病気を経験してきた高齢者ではないかと考えるに至った。今回の事業は、このような考えのもとに始まったものである。

今回老人クラブの方々と共同してこの事業を遂行することができたことは、私たち NPO 法人あがつま医療アカデミーにとって、掛け替えのない経験であった。老人クラブの方々から数々の貴重な意見を拝聴できたこと、「意思表示帳」を協力しながら共同制作できたことは、極めて貴重な体験であった。今回作成した「私の意思表示帳」は、老人クラブの方々と共同して作成したものであり、それを活用してくれる人が今後一層増えていくのではないかと予想される。

【今後の展望】

本邦では認知症や悪性腫瘍など様々な疾患や障害を抱えながら生活する高齢者が増加している。群馬県吾妻郡においては、全国平均よりはるかに速いスピードで高齢社会が進んでいる。本人がどのように療養し最期を迎えたいかという問題に、自分なりに考え、その意思を何らかの形で表明することは非常に大事なことである。またその意思決定の際に、医療介護福祉従事者が支援を行うこと、支援ができる体制を整えることも、同じように非常に重要なことである。

科学技術の進歩に伴い、現在の日本では様々な分野において効率化を求め、多くのことが合理化される傾向にある。医療の世界でも多くの分野で効率化、合理化されてきており、これが医療の進歩に大きく貢献していることは否定しない。しかし医療介護福祉の世界においては、効率化だけでは決して解決できない問題が存在することを私たちははっきりと知っている。それは「死に対する自分なりの哲学」という問題である。

私たち医療者は患者を目の前にするとき、患者の病気に気をとられ、患者自身の人生観や価値観を見つめることを忘れてしまうことがありはしないだろうか。また患者自身も、重い疾患に罹患すると、その病気に気を取られ、自分が本当にしたいこと、自分自身が最も大事にしていることをないがしろにしてしまう傾向にあるのではないだろうか。

群馬県吾妻郡ではこれらの活動を地域社会の中で実践することの重要性を早くから認識し、2014年から「リビング・ウィル」啓発活動を開始。「私の意思表示帳」の作成も積極的に行っている。この活動と同時に、医療介護福祉従事者のアドバンス・ケア・プランニングの知識および実践能力の向上目的とした研修会も開催した。

今後は、アドバンス・ケア・プランニングの考えを広く一般の住民の人たちに知ってもらうことが極めて重要なことであると考えている。アドバンス・ケア・プランニングの考えが普及することで、今までタブー視されてきたものの、人間にとって普遍的課題である「自己の死」に対する議論が深まると考えている。その結果、医療者だけでなく医療に直接携わらない人たちにも、人が生きる意味、死に対する自分なりの哲学を築き上げることができるひとつのきっかけになりうるのではないだろうか。そして群馬県吾妻郡が、自分らしく最期まで生きることのできる社会になっていくことを願っている。

私たちは誰でも年を重ね老人になっていく。同時に医療は常に進歩していく。そして地域社会も日々変化していく。老人クラブの方々と医療者が協力しあい、その時の地域社会の状況、医療情勢などを勘案しつつ「意思表示帳」を制作したことは非常に意義のあることと確信しており、この試みは今後日本全国のモデルになっていくものと考えている。そしてこの活動を私たちが様々な機会を使って報告することで、日本の社会全体が、生や死に対して率直に議論することができるようになることを望んでいる。

今回の研究事業については、各方面の住民に広く知っていただきたいと考えるため、医療者側は、日本プライマリ・ケア連合学会もしくは日本静脈経腸栄養学会、あるいは日本赤十字社学会などで報告する予定である。また老人クラブでもそのネットワークを活用し、各地域のクラブに啓発していきたいと考えている。

*1) 内田信之ら：在宅胃ろう患者の訪問調査から見えていた在宅医療の問題と今後の展望、日本静脈栄養 30(4)：953－958、2015

*2) 内田信之ら：吾妻地域における「リビング・ウィル」の啓発活動と「私の意思表示帳」の作成、日本プライマリ・ケア連合学会誌 38(4)：391－392、2015

この研究は、2016年度後期 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団より助成を受けて、行われたものである。

感想

NPO 法人あがつま医療アカデミーは、群馬県吾妻地域の医療発展と吾妻地域の住民の健康増進に寄与することを目的に平成 24 年 7 月に設立された組織です。吾妻地域の様々な医療の問題を取り上げ、医療従事者の垣根を超えて多くの住民の方々とともに議論していきたいと考えて設立しました。

実は私たちが最初に受けた助成が貴財団でした。2013 年度前期助成事業として「群馬県吾妻地区での在宅胃ろう患者の実態調査と胃ろう患者すべてを支えるネットワークの構築」というタイトルで 1 年間活動させていただきました。当初は、胃ろう患者やそのご家族を少しでも支援することができればという思いで、彼らの気持ちを直接伺いながら、地域全体でより良いセイフティネットワークを作ることを目的としていました。ところが彼ら（多くはご家族でした）の意見を拝聴するにつれ、彼らにとって、本当の意味の幸せとは何か、ということ深く考えるようになりました。この時 74 名の胃ろう患者を確認することができましたが、造設時に本人の意思が明らかに関与していたのはわずかに 2 名（2.8%）のみということを知りました。これは私たちにとって大きな驚きでした。そしてこの時私たちが確信したことは、胃ろうの本質的な問題は、胃ろうの管理や造設後の生存期間ではなく、胃ろうを抱える人たちの人生観を想像できるかどうかである、ということでした。そして「リビング・ウィル」の重要性を認識し、申請時に記載のなかった「私の意思表示帳」を作成することになりました。当時は貴財団にはいろいろとご迷惑をかけてしまいました。改めて深くお詫び申し上げます。

その後、「リビング・ウィル」啓発活動が、私たち NPO 法人あがつま医療アカデミーにとって最も重要なテーマであるという考えに至り、様々な活動をしてまいりました。今後も多くの住民たちとともに、この普遍的テーマを考えていく所存です。今回貴財団の支援により、老人クラブ連合会の方々と共同で活動できたことを大変貴重な経験と私たちは感じております。

現在群馬県内では、前橋市、高崎市、富岡市などで「意思表示帳」や「エンディングノート」などが作成されています。特に前橋市が作成した時は、私たちも深く関与させていただきました。今後群馬県全体でこの活動が広がっていくものと思われまます。特に今回老人クラブ連合会の皆様と一緒に活動できたことが、他の地区にも大きな影響を与えるものと考えております。

NPO 法人あがつま医療アカデミーは、今後も貴財団よりご指導、ご支援を賜る機会があると確信しております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月 吉日

NPO あがつま医療アカデミー理事長 内田信之